おーい図書館

No.57
発行 おーい図書館
代表 青木 和子
松戸市稔台830-60
TEL.367-5384

◎浦安図書館長 常世田良氏の講演を聴いて©

今、必要な図書館とは

東 由美

浦安図書館長のお話を伺い、これからの図書館の輪郭が、うっすらと見えてきた思いがしました。

最近、社会の変化と、一人一人の変化がからみ合って、図書館に対する市民の「要求」が、以前の図書館業務と急激に変化しているということです。つまり、多くの人間の中に多様性があるのでなく一人の人間の中に多様性があるという事です。

以前は、本を借りる人のほとんどが文学書であったのが、今では、60%の人が文学書でない、専門書や雑誌である。読み方も、最初から最後まで読み切る事から自分が求めている必要な所を読むという様に大きく変化して来ているという事です。この変化に伴い、市民の求めている内容が、どの本のどこに記載されているかという専門知識や能力が問われ専門職を効率良く提供して行く事に力を注いでいるという事です。

市民に対するサービスとして知識や情報を提供する手段として、本、雑誌、ビデオ、専門書を管理している。が、しかし、本を貸し出すという事は、手段でしかなく貸し出しや返却業務が、図書館のサービスだと、錯覚してはいけない。まだまだ、この様な錯覚を持った図書館が多いという事です。

ここ松戸図書館の実情はどうでしょうか。今のあり様で議員、教師、会社員、商売人、主婦、学生、すべての老若男女にとって時代の「要求」は満たされていますか？

社会が、一人一人が、活性化を問われていますが、それに必要な知識や情報を、松戸図書館にぜひ、求めて行きましょう。

人間らしくやさしく生きて行きたいために充実した図書館の方向を皆さんで構築して行きましょう。

ちょっといい話!!

講演会の後何人かの人が浦安図書館を訪れました。

「松戸よみうり」の記者・戸田さんは「図書館を考える」というシリーズで第一面全部を使って記事を書いてくださっています。浦安市立図書館は図書費が松戸の8倍という見出しに、私もショックでした。(S)

時代の進歩と痛感

山口 そのゑ

常世田館長さんのお話を伺って図書館行政の進歩と、構想の広がりに驚きました。戦前派の私には隔世の感がありました。

はじめにおっしゃった「図書館は、従来のように一人の知識欲を満足させ教養を高めるためにのみあるものではなく あらゆる分野の専門書の大冊の一頁が必要という人のためにもその要求を充たすものでありたい」との御意見には目を瞠る思いでした。

蔵書力は、もちろんながら新聞なども、明治五年からあるとの事で、日清、日露戦争はおろか政治家伊藤博文や、作家の子規、瀬石、鴎外などの死の周辺も、その時代の息吹きごと探る事ができるわけで、お話を伺いながら、喜びを深くしました。

「図書館は建物や設備が立派なだけで良いのではない」と、おっしゃいましたが共感です。

貸す側と借りる側に暖かい交流がほしいと思います。その意味でこの時上映された、二篇のビデオは、利用者の大人にも子供にも、行き届いた応対があって、ほのぼのと、心温もりました。

松戸の市立図書館も、館の人の応対に、あたたかさがあり、国会図書館より、よほど良いと思いますが、椅子がない時など、全集の中から、必要な作品を探し出す時たいへん苦労します。

常世田館長さんのおっしゃるような理想的な図書館が生れたら、どのように良いかと思います。

子育て最中の、お母さん方に、グリムや、アンデルセン、未明やひろすけなどの名を知らない人が多くなりました。童話に親しんで育っていないのです。低俗な本の氾濫が、俗化テレビと共に、児童や、若者の心の荒廃を招いている現状で、新世紀に図書館の担う役割は大きいと、深く感じさせられた講演会でした。

◎いつか

川井敏久松戸市長も

浦安図書館を訪れるでしょう

11月16日(火)、川井市長も浦安図書館を見てほしい、私たちはいつでも市長の都合に合わせるので是非！という要望書を市へ提出しました。

11月19日(金)、忙しいので、いつとは言えないが、近くへ行った時、立ち寄ります、という、返事を、頂きました。

国民の知る権利を充実させるために

宮腰　直子

去る10月30日に松戸市民会館で常世田氏の講演を聴きました。恥ずかしながら、30分ほど遅刻をしてしまいました。そっと会場にすべりこむと、ほぼ満席で、すでに聴講者の方々は、常世田氏のお話に引き込まれている様子でした。

この講演の中で、私の頭に強く残った事は、図書館利用者のニーズの変化に応じて、図書館サービスの在り方を変化させていくべきだという事、図書館利用者の知る権利を一層充実させるために図書館の利用を、さらにしやすくすべきだという事です。

利用者のニーズとしては、単に本を借りて読むという事にとどまらず個人では手に入れにくい専門的な書物等を利用した調べもの(リサーチ)をするという事があると思います。

私は、大学卒業後、大学図書館から遠のいてしまった時に、近所の図書館で大学図書館の様にリサーチができたらいいのにと、感じた事があるので、リサーチのためのサービスに力を入れるという事は、とても嬉しい事だと思いました。

また、市民が図書館を利用し易くするために、専門職員として充分な数の司書が必要であるとの事でした。その時は、司書って、どんな資格なのかよく知らなかったので、後日、浦安市図書館のレファレンス室で調べてみました。

司書の資格をとるには、図書館経営や図書館サービス、情報サービス、資料組織等に関する科目を20単位あまり修得するなどの条件が必要と知りました。

そのような司書が、図書館にいてくれれば、たしかに図書館の利用がしやすくなるでしょう。

今までも、図書館は、市民に書物に触れる機会を与え、市民の知的興味をかきたて、市民に対する啓蒙と文化の発展に寄与してきたと思います。

さらに加えて、情報収集やリサーチのためのサービスの拡充がなされる事は、図書館の多元的な利用を可能にし、国民の知る権利を一層充実させる事となるでしょう。

そのために、多くの人々が、努力し、協力しあっている事を知り頭が下がる思いでした。

図書館はその町の頭脳！

毛利　多寿子

浦安の図書館には、何度か見学に行かせて頂きました。そのおりに図書館見学の説明としての常世田館長さんのお話を聞かせて頂きました。

まず、図書館見学をして。その時の行き届いた配慮に感心させられ、また、とても羨ましく見学させてもらいました。

このたび、館長さんのお話を伺う事ができて、図書館に対する理論と見識に裏打ちされた結果の、あの図書館であったと改めて納得いたしました。

お話を聞いていて一番印象に残っているのは「図書館はその町の頭脳だ」と、言われた事です。「ヒットラーが侵略して行った先で一番最初にした事は図書館を攻撃した事だ」と言った意味の事を何かで読んだ事です。それほどに図書館の持つ意味の大きさを知っていたという事でしょう。

図書館はその町の頭脳！何と素晴らしい言葉ではありませんか！

私は今までなんとなく図書館を利用していました、自分が知りたい情報が家の中にないから、図書館に行けばあるものだと。分からないことは、自分で調べるものだと思っていました。図書館に行って点訳していた時に明治時代の文豪の書いた本の文章の中の一つの漢字が読めなくて一日かかってやっと見付けられたり、学校の古い資料が欲しくて尋ねたら、学校に聞かないと分からないとか、松戸市に関する資料を尋ねたら、市役所は資料をくれないからとか言われたりしました。図書館に行けばわかると思ったのに、なあんだ、しょうがないかと、諦めてしまった事がありました。

あらためて、図書館は、表に見える事よりも何倍かの大事な仕事を持っていて、その大事さゆえに図書館は町の頭脳という、その意味が館長さんのお話を聞いてとてもよく理解できました。

図書館を「町の頭脳」と、とらえていけば、そのためにはどうあるべきか、非常に示唆に富んだお話を聞かせて頂きました。

Attention, please.

例会は
2000年1月22日　第4土曜日
女性センター　ゆう松戸　実習室
14:00～17:00